

令和 7 年度 1 学年

== 共通教科 ==

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	新編言語文化（東京書籍）			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、自分の考えが効果的に伝わるように、表現の仕方等を工夫しようとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代文	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。
古文	古文の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまりや古文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	進んで文語のきまりや古文特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。
漢文	漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまりや漢文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、漢文を学ぶ意味について考えを持とうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、観点別の総括をABCで行う。また、前、後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
発表・発言	○	○	○
ノート・プリント		○	○
行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ・教科書・ノート等、忘れ物をしないこと。
- ・授業中は必ずノートを記入すること。
- ・提出物は、提出期限を守ること。
- ・主体的に授業に参加すること。
- ・発表や話し合いは、他者の意見に耳を傾け、お互いに認め合いながら学ぼうという姿勢で臨むこと。

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	新編現代の国語（大修館）			副教材	ライトパーフェクト		対応資格		

1 目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き進んで表現することによって、社会生活や国語の向上を図ることを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
主体的、対話的で深い学びを通して国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を身に付けるようにする。	論理的に「書くこと」と「読むこと」によって論理力を鍛える。特に「読むこと」に思考力、判断力を養う。	「話す・聞く」「書く」「読む」力を身につけ、言葉の大切さを意識し、主体的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主体的、対話的で深い学びを通して国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を身に付けている。	論理的に「書くこと」と「読むこと」によって論理力を鍛える。特に「読むこと」に思考力、判断力を身に付けている。	「話す・聞く」「書く」「読む」力を身につけ、言葉の大切さを意識し、主体的に取り組もうとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 ことばをひらく 第1節 変わることを楽しもう 第2節 コミュニケーションは技術だ 第3節 ことばの準備体操	主張と根拠の関係について理解している。	「読むこと」において文章の内容や構成、論理の展開を的確に捉え要点や要旨を把握しようとしている。	筆者の主張を踏まえて「現代の国語」の学習やコミュニケーションに積極的に取り組もうとしている。
第2章 日本語を使いこなす 第1節 ことばの使い分け 第2節 正しく書こう 第3節 伝わるように話そう	場面や目的に応じた適切な言葉、敬語、正しい使い方、類義語のニュアンスについて理解している。	自分の考えや事柄が適切に伝わるように、文章の種類や語句などの表現を工夫している。	言葉を正しく使い分けることに意欲を持ち、言葉を意識して自らの言語生活を豊かに取り組もうとしている。
第3章 わかりやすく説明する 第1節 絵や写真を説明しよう 第2節 料理レシピを書こう 第3節 ショートスピーチをしよう	正確にわかりやすく説明するために適切な語句を選んだり比喩や例示などの修辞を用いたりしている。	「書くこと」において、読み手にわかりやすく伝わるように文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。	正確にわかりやすく説明する文章を書くことに意欲を持ち、積極的に学習活動に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。（仮評価）また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3 学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

教室では座学と、クロームブックを使用したデータ分析やスピーチなどを入れた実技を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・ノート・ワークブック、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	地歴公民	科目	公共	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	高等学校 公共（第一学習社）			副教材	なし	対応資格			

1 目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3 〔指導項目〕ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本原理	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であり、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。

第2編 自律した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 第2章 政治的な主体となる私たち 第3章 経済的な主体となる私たち	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、法や規範の意義及び役割、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・第1，2編で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で習得した知識及び技能を活用している。	・よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見だし、諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において上記3観点で評価、学期末に観点別の総括をABCで行う。また、学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。詳細は本校教務規定を参照の事。

本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		
ICT 機器の操作	○	○	
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	最新数学 I (数研出版)			副教材	パラレルノート数学 I		対応資格	なし	

1 目標

数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力がついている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身についている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 数と式 第1節 数と式 第2節 実数 第3節 1 次不等式	- 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則演算ができる。 - 乗法公式及び因数分解の理解が深められている。 - 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式の解を求めること	- 問題を解決する際に、すでに学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりできる。 - 不等式の性質を基に 1 次不等式を解く方法を考察している。	- 整式の整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 - 展開と因数分解の関係に着目し、検算に展開を利用しようとする。 - 不等式の性質から 1 次不等式や連立不等式解法を考察しようとする。

	ができる。	・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用できる。	・身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式	・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、最大値・最小値を求めることができる。 ・方程式の解とグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	・身近な問題を関数の式で表し、考察することができる。 ・最大値・最小値、方程式の解、不等式の解をグラフを用いて理解しようとする。 ・2次方程式が実数解や重解を持つための条件を式で示すことができる。	・日常生活に見られる具体例から関数を見つけようとする。 ・放物線の性質に興味関心を示し、自ら調べようとする。 ・1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考え、身近な問題を2次不等式を用いて解決しようとする。
第2章 集合と命題	・集合と命題に関する基本的な概念を理解している	・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明できる。	・集合についてそれぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとしている。 ・集合の包含関係が命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は單元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。（仮評価）また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		
自学課題	○		○
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

数学は、数学的見方・考え方を身に付けることにより事象を論理的に考察する力、表現する力を養う教科です。座学が中心となりますが、普段の授業を大切にし問題意識を持って積極的に授業に参加し、課題や提出物にもしっかりと取り組んでください。

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年	1	学科	品質管理流通科
使用教科書	高校化学基礎(実教出版)			副教材	高校化学基礎カラーノート 新課程版(実教出版)			対応資格	なし

1 目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
日常生活や社会との関係を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関係を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章 化学と人間生活	化学と人間生活についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	身近な物質や元素について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現することができる。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
1章 物質の構成 1 物質の探究 2 物質の構成粒子	物質の構成粒子についての知識を理解し、また、物質と化学結合についての観察、実験を通して、それらの知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物質の構成について、観察、実験を通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
2章 物質と化学結合 1 イオン結合 2 共有結合 3 金属結合			

3章 物質の変化 1 物質と化学反応式 2 酸と塩基 3 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界	物質と化学反応式、化学反応、化学が拓く世界についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物質の変化とその利用について、観察・実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
--	--	---	---

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCする。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	1	学科	海洋技術科・機関工学科
使用教科書	科学と人間生活(東京書籍)			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

自然の事物・現象資質に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献しているかについて理解している。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
1編 生命の科学 1章 微生物とその利用	微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解している。	生命の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
2編 物質の科学 1章 材料とその利用	身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。	物質の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用	光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解している。	光や熱の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
4編 宇宙や地球の科学 2章 自然景観と自然災害	自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解している。	宇宙や地球の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
5編 課題研究	これからの科学と人間生活の関わり方について認識を深めている。	これからの科学と人間生活の関わり方について科学的に考察することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。（仮評価）また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	2	学科	海洋技術科・機関工学科
使用教科書	科学と人間生活(東京書籍)			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

自然の事物・現象資質に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献しているかについて理解している。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
1編 生命の科学 2章 微生物とその利用	微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解している。	生命の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
2編 物質の科学 2章 材料とその利用	身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。	物質の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3編 光や熱の科学 3章 光の性質とその利用	光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解している。	光や熱の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
4編 宇宙や地球の科学 4章 自然景観と自然災害	自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解している。	宇宙や地球の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
5編 課題研究	これからの科学と人間生活の関わり方について認識を深めている。	これからの科学と人間生活の関わり方について科学的に考察することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。（仮評価）また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館)			副教材	保健体育ノート		対応資格		

1 目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育理論 1. 「スポーツの文化的現代のスポーツの発展」	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。
体育理論 2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。		
体育理論 3. 豊かなスポーツライフの設計の仕方	豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。		
集団行動	様々な環境下で実践する際の集団の一員としての自覚や行動を実践するための技能を習得している。	集団の中の一員としての自覚をよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	集団行動を自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすることや、健康・安全を確保しようとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体づくり運動	様々な環境下で実践する際の健康・安全の確保の仕方やマナーなどの多様な関わり方を実践するための事項を理解している。 地域社会での活動などの企画や運営、健康・安全の確保、スポーツを通じた良好な人間関係の形成する際などに求められる技能を習得している。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	生涯にわたってスポーツを実践していく際の協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めスポーツの推進及び発展に寄与する自己の姿勢や他者、地域社会との関わり方などのスポーツ価値を高めることに主体的に取り組もうとしている。
器械運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技している。	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、一人1人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。
サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。
水 泳	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。	泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。
柔 道	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。3 学期末（年度末）には、それぞれの学期の観点別の評価（ABC）を 1 年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

1 年間の観点別の評価（ABC）は、学校で定めた下の表から 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- a, A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- b, B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- c, C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で書く観点の評価をおこなう。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技試験	○		○
発表・話し合い		○	○
発言・行動観察		○	○
自己評価・相互評価	○	○	

5 担当教員から

体育館、グラウンドで授業を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、ジャージ等の忘れ物が無いよう注意すること。

教科	保健体育	科目	保 健	単位数	1	学年	1	学科	普 通 科
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館)			副教材	保健ノート		対応資格		

1 目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	項目名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 1 単元 現代社会と健康				
1	健康の考え方と成り立ち	- 我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 - 健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	- 健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 - 国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	私たちの健康のすがた	- 健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 - 免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	

3	生活習慣病の予防と回復	・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4	がんの原因と予防	・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	
5	がんの治療と回復		・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
6	運動と健康			
7	食事と健康			
8	休養・睡眠と健康			
9	喫煙と健康	・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
10	飲酒と健康	・コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。	
11	薬物乱用と健康	・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
12	精神疾患の特徴	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
13	精神疾患の予防	・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうることで、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・精神疾患の予防と回復について、自他	

14	精神疾患からの回復	・精神疾患の予防と回復には、身体 の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
15	現代の感染症	・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
16	感染症の予防	・感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。	・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。	
17	性感染症・エイズとその予防		・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
18	健康に関する意思決定・行動選択	・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
19	健康に関する環境づくり	・適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があ	・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理	

		ることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
保健編 2 単元 安全な社会生活				
1	事故の現状と発生要因	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。	安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	安全な社会の形成	・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
3	交通における安全	・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4	応急手当の意義とその基本	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
5	日常的な応急手当	・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。		
6	心肺蘇生法	・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AED などを用いて心肺蘇生法ができる。		

保健編 3単元 生涯を通じる健康			
1	ライフステージと健康	・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	思春期と健康	・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
3	性意識と性行動の選択		
4	妊娠・出産と健康	・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。	
5	避妊法と人工妊娠中絶	・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。	
6	結婚生活と健康	・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
7	中高年期と健康	・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
8	働くことと健康	・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。
9	労働災害と健康		

		・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。	している。
10	健康的な職業生活	・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、を理解したことを言ったり書いたりしている。	・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
保健編 4 単元 健康を支える環境づくり				
1	大気汚染と健康	・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ・環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	水質汚濁、土壌汚染と健康			
3	環境と健康にかかわる対策	・健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4	ごみの処理と上下水道の整備	・上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
5	食品の安全性	・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日	食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

6	食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ・食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
7	保健サービスとその活用	・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
8	医療サービスとその活用	・健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
9	医療品の制度とその活用	・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
10	さまざまな保健活動や社会的対策	・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。 ・様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道	様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

			を立てて説明している。	
11	健康に関する環境づくりと社会参加	・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康に関する環境づくりと社会参加について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 ・健康に関する環境づくりと社会参加について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
体育編 1 単元 スポーツの発祥と発展				
1	スポーツの始まりと変遷	・スポーツは、人類の歴史とともに世界各地で日常の遊びや生活などから生まれてきたこと、近代になって、スポーツは娯楽から競技に変化し、一般の人びとに広がっていったこと、現代では、競技だけでなく、広く身体表現や身体活動を含む概念としてスポーツが用いられるようになってきており、その理念が時代に応じて多様に変容してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 ・スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。
2	文化としてのスポーツ	・近年では、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあり、日本の文化の発信に貢献していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3	オリンピックとパラリンピックの意義	・現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックやパラリンピック等の国際大会があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・オリンピックムーブメントは、オリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界の平和に貢献しようとするものであること、また、パラリンピック等の国際大会が、障害の有無等を超えてスポーツを楽しむことができる共生社会の実現に寄与している		

		ことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4	スポーツが経済に及ぼす効果	・現代のスポーツの経済的効果には、スポーツの実施による直接的な効果のみならず、例えば、スポーツ用品、スポーツに関する情報やサービス、スポーツ施設などの広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による波及的な経済的効果があり、経済活動に大きな影響を及ぼしていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
5	スポーツの高潔さとドーピング	・競技会での勝利が個人や国家等に多大な利益をもたらすようになるとドーピング(禁止薬物使用等)が社会問題として取り上げられるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・スポーツの経済的波及効果が高まることに伴って、スポーツの価値をおとしめる可能性が生じることから、スポーツに関わる全ての人々に、スポーツの価値を一層高める関わり方が求められていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
6	スポーツと環境	・スポーツに関わる人々の増加は、例えば、地域の人々の生活や社会環境にも様々な影響をもたらすようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・スポーツを行う際には、提供者、利用者の双方が持続可能な社会の実現や共生社会の実現を視野に入れた取組が求められることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
体育編 2単元 運動・スポーツの学び方				
1	スポーツにおける技能と体力	・運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に関連した体力を高めることが必要になることや、期待される成果に応じた技能や体力の高め方があることについて、理解したことを言ったり書いた	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見すること。 ・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための	運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。

		りしている。	自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。
2	スポーツにおける技術と戦術	・個々の運動やスポーツを特徴付けている技術は、練習を通して身に付けられた合理的な動き方としての技能という状態で発揮されること、技能には、クローズドスキル型とオープンスキル型の技能があること、オープンスキル型の技能は、対人的な競技などで絶えず変化する状況の下で多く発揮されること、クローズドスキル型の技能は、個人的な競技などで状況の変化が少ないところで多く発揮されること、その型の違いによって学習の仕方が異なることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・スポーツの技術や戦術、ルールは、用具や用品、施設などの改良によって変わり続けていること、特に現代では、テレビやインターネットなどのメディアの発達などによっても影響を受けていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
3	技能の上達過程と練習	・運動やスポーツの技能の上達過程を試行錯誤の段階、意図的な調整の段階及び自動化の段階の三つに分ける考え方があること、また、これらの段階に応じて、効果的に上達を図るためには、良い動きを参考として自己の課題を設定すること、課題解決のための自己に適した練習方法を選択すること、自己観察や他者観察を通して課題を発見し解決すること、上達に応じて次の課題を設定することといった取り組み方が運動の継続に有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・技能の獲得には、一定の期間がかかることを踏まえ、解決すべき課題を意識した上で、繰り返し取り組むことが安定した技能の定着につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
4	効果的な動きのメカニズム	・運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に関連した体力を高めることが必要になることや、期待される成果に応じた技能や体力の高め方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツを行う際、個人の体力に不適切で	
5	体力トレーニング		

		過度な負荷や一定部位への長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があること、また、これらを予防することでスポーツが末永く継続できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
6	運動やスポーツでの安全の確保	・運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められること及び、気象条件や自然環境の変化など様々な危険を予見し回避するためには、けがや事故の防止のための対策、発生時の処置、回復期の対処などの各場面での適切な対応方法を想定しておくこと、けがや事故につながりそうな体験から行動や活動環境の修正を図ることが有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツを行う際、個人の体力に不適切で過度な負荷や一定部位への長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があること、また、これらを予防することでスポーツが末永く継続できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		

体育編 3 単元 豊かなスポーツライフの設計

1	生涯スポーツの見方・考え方	・スポーツには、乳・幼児期から高齢期に至るライフステージごとに、体格や体力の変化などに見られる身体的特徴、精神的ストレスの変化などに見られる心理的特徴、人間関係や所属集団の変化などに見られる社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方は、個人のスポーツ経験や学習によって育まれたスポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などによっても変化するものであることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見すること。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。	豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。
2	ライフスタイルに応じたスポーツ	・生涯にわたって「する、みる、支える、知る」などのスポーツを多様に継続するためには、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方を見付けることに加え、それぞれの生き方や暮らし方といったライフスタイルに応じた無理のないスポーツへの関わり方が大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・ライフステージやライフスタイルによっては、仕事の種類や暮らし方によって運動に関わる機会が減少することもあるため、仕事と生活の調和を図るこ		

		と、運動の機会を生み出す工夫をすること、多様な関わり方を実現するための具体的な設計の仕方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3	スポーツを推進する取り組み	・国や地方自治体は、スポーツの推進のために様々な施策を行っており、人や財源、施設や用具、情報などを人々に提供するなどの条件整備を行っていること、また、スポーツの推進を支援するために、企業や競技者の社会貢献、スポーツボランティアや非営利組織（NPO 等）などが見られるようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4	豊かなスポーツライフの創造	・スポーツを、人生に潤いをもたらす貴重な文化的財産として未来に継承するためには、スポーツには健康で生き生きとした生活をもたらしたり、様々な人々とつながったりするなどの可能性がある反面、過度な運動による健康への悪影響や勝利を優先する余り人間関係を悪化させるなどの問題点があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人生に潤いをもたらす適切な関わり方を継続するためには、「する」だけでなく、豊かなスポーツライフを実現するための「みる」、「支える」、「知る」などの卒業後のスポーツへの多様な関わり方を構想したり、設計したりすることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。3学期末（年度末）には、それぞれの学期の観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

1年間の観点別の評価（ABC）は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- a, A:「十分満足できる」状況と判断されるもの
- b, B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- c, C:「努力を要する」状況と判断されるもの

教科担任の裁量

学校で統一

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元テスト	○	○	
発表・話し合い		○	
ワーク		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

%ではなく、
○で表現した

教科担任の裁量

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、教科書・ワーク等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	書道 I (東京書籍)			副教材	なし	対応資格	なし		

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の書	- 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 - 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 - 古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。	- 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 - 意図に基づいた表現について構想し工夫している。	- 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 - 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
仮名の書	- 線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 - 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 - 連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。	- 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 - 意図に基づいた表現について構想し工夫している。	- 主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 - 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

漢字仮名交じりの書	・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。	・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。	・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
-----------	---	---	--

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は單元ごとに設定）

この結果を数値化することで、観点別の総括を ABC で行う。また、前、後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作	○	○	○
ワークシート	○	○	○
発表・話し合い		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ・時間厳守。
- ・服装は墨液がついてもかまわないもの（但し「服装四原則」に違反することのないよう注意すること）。
- ・発表や話し合いは、他者の意見に耳を傾け、お互いに認め合いながら学ぼうという姿勢で臨むこと。
- ・作品制作は集中して行い、他者の制作の妨げになるような行動は慎むこと。

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	音楽Ⅰ Tutti+ (教育出版)			副教材	The Basics of Music (教育芸術社)		対応資格		なし

1 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的 背景などとの関わり及び音楽の多様 性について理解するとともに、創意 工夫を生かした音楽表現をするため に必要な技能を身に付けるようにす る。	自己のイメージをもって音楽表現を 創意工夫することや、音楽を評価し ながらよさや美しさを自ら味わって 聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動 に取り組み、生涯にわたり音楽を愛 好する心情を育むとともに、感性を 高め、音楽文化に親しみ、音楽によ って生活や社会を明るく豊かなもの にしていく態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的 背景などとの関わり及び音楽の多様 性について理解しているとともに、 創意工夫を生かした音楽表現をする ために必要な技能を身に付けてい る。	自己のイメージをもって音楽表現を 創意工夫することや、音楽を評価し ながらよさや美しさを自ら味わって 聴くことができる力を身に付けてい る。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動 に取り組み、生涯にわたり音楽を愛 好する心情を育むとともに、感性を 高め、音楽文化に親しみ、音楽によ って生活や社会を明るく豊かなもの にしていく態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
音楽理論基礎	音楽を演奏したり、鑑賞し たりする為の基本的な知 識が身に付いている。	実際に楽譜から音やリズ ムを読み取り、演奏や表現 が出来ている。	主体的に取り組んでいる。
歌唱	曲の背景を理解し、曲種に 応じた発声、発音が出来て いる。	習得した知識や技術を生 かして自己のイメージで 歌唱表現の創意工夫が出来 ている。	主体的に取り組んでいる。
器楽 (アルトリコーダー)	楽器の歴史や特徴を理解 し曲にふさわしい奏法が 出来ている。	習得した知識や技術を生 かして自己のイメージで 演奏表現の創意工夫が出来 ている。	主体的に取り組んでいる。
鑑賞	様々な民族やジャンルの 音楽の文化的、歴史的背景 を理解し、それがどの様な 特徴として表れているの かを捉えている。	知識から思考、判断し、き ちんとした根拠を持って 評価出来ている。	主体的、協働的に取り組 み、また、意見交換が出来 ている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元の1回の授業について、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてabcで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

各観点について $a=3, b=2, c=1$ として点数に置き換え平均値を求め、

$A: 2.5 \leq \text{平均値}$, $B: 1.5 \leq \text{平均値} < 2.5$, $C: \text{平均値} < 1.5$

上記に従い単元ごとあるいは、学期ごとに $A \cdot B \cdot C$ を求める。

単元の終わりや学期ごとに成績を出して、3観点にCがある場合は、何らかの手立てをする。

前期と後期のそれぞれの評価が求まった後、

前期:後期 = 1:1として、また、 $A=3, B=2, C=1$ として点数に置き換え、

$$\frac{(\text{前期の評価}) + (\text{後期の評価})}{2}$$

それぞれ3観点について、次の関係からABCを総括する。

$A: 2.5 \leq \text{平均値}$, $B: 1.5 \leq \text{平均値} < 2.5$, $C: \text{平均値} < 1.5$

それぞれの観点を総括して1年間の成績とする。

この1年間の成績におけるABCの評価の組み合わせから、下表のとおり5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定	【目標の実現に向けた学習状況】 a, A:「十分満足できる」状況と判断されるもの b, B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの c, C:「努力を要する」状況と判断されるもの
AAA	5	
AAB	5	
ABB	4	
AAC	4	
ABC	3	
BBB	3	
BBC	3	
ACC	3	
BCC	2	
CCC	1	

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト(筆記)	○		
小テスト(実技)	○	○	
発表・話し合い	○	○	○
ワーク・レポート類	○	○	○
作品制作		○	
発言・行動観察	○	○	○

※小テストは、3倍して重み付けをする。

5 担当教員から

忘れ物、ワーク・レポート等未提出も成績に大きく響きますので気を付けてください。

教科	英語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	2	学年	1	学科	全て
使用教科書	VISTA ENGLISH Communication I (三省堂)			副教材	コパス1800(東京書籍)		対応資格	なし	

1 目標

外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語5技能の言語活動及びこれらの統合的言語活動を通して、情報・考えなどを的確に理解・表現・伝達し合うなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
外国語の5技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けると共に、外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。	場面に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすると共に、手に入れた情報を活用して、自分の意見を伝える力を身に付ける。	他者を尊重し、配慮しながら、外国語で手に入れた情報を活用し、自分の意見を表現しようとしたり、言語やその背景にある文化の違いに対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の5技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けると共に、外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすると共に、手に入れた情報を活用して、自分の意見を伝えている。	他者を尊重し、配慮しながら、外国語で手に入れた情報を活用し、自分の意見を表現しようとしたり、言語やその背景にある文化の違いに対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしたりしている。

3 【指導項目】 Lesson ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Lesson 1 Colors of Spring 1) 現在形の be 動詞 2) 現在形の一般動詞	現在形の動詞を使った文を読んだり聞いたりして、人物の現在の状態や動作を理解できる。	現在形の動詞を使って、現在の自分の状態や動作を話したり書いたりして、相手に伝えることができる。	春のイメージカラーの国による違いや、世界各地への文化の広がりについて知ろうとする。
Lesson 2 Dick Bruna 1) 過去形の be 動詞 2) 過去形の一般動詞	過去形の動詞を使った文を読んだり聞いたりして、ディック・ブルーナの過去を理解できる。	過去形の動詞を使って、過去の自分の状態や動作を話したり書いたりして、相手に伝えることができる。	ミッフィーの作者、ディック・ブルーナについて学ぶ中で、その誕生のきっかけや功績について知ろうとする。
Lesson 3 Interesting Sports 1) 現在進行形 2) 過去進行形	進行形を使った文を読んだり書いたりして、人物が今・過去のある時点で何をしていたかを理解できる。	進行形を使って、今・過去のある時点で自分がやっていたことを相手に伝えることができる。	様々なスポーツについて調べ、その歴史や競技方法を知ろうとする。

Lesson 4 Pictograms 1) 助動詞 2) 主語・目的語の動名詞 3) 補語・前置詞の後ろの動名詞	助動詞 can/will を使った文を読んだり聞いたりして、 (1)多くの外国人観光客ができないことを理解できる。 (2)(3)ピクトグラムを作る上で大変なことが何なのかを理解できる。	(1)助動詞 can/will を使って、自分のできていることを相手に伝えることができる。 (2)(3)動名詞を使って、自分にとって大変なことを相手に伝えることができる。	オリンピックに使用されたピクトグラムについて、それがどのようなスポーツかを知ろうとする。
Lesson 5 We Are Part of Nature 1) 不定詞名詞用法 2) 不定詞副詞用法 3) 不定詞形容詞用法	不定詞を使った文を読んだり聞いたりして、 (1)岩合光昭が写真家として成功している秘訣を理解できる。 (2)岩合光昭が写真家として嬉しいことを理解できる。 (3)今の子供達が生きていく上で必要なことが何かを理解できる。	(1)不定詞を使って、学校生活を送る上で大切なことを相手に伝えることができる。 (2)不定詞を使って、自分が嬉しいことを相手に伝えることができる。 (3)不定詞を使って、自分にとって今、何をすることが必要かを相手に伝えることができる。	岩合光昭の写真家としての流儀を学び、自然と生活することの大切さを知ろうとする。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
発言・行動観察	○	○	○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

英語は座学と実技の2つの側面を持っています。そのため、テストだけ頑張っても良い成績は残せません。普段の授業を大切に、発表や調べ学習にも積極的に取り組んでください。

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	Survive!! (教育図書)			副教材		担当教諭	石川 佳寿美佳 (いしかわ かずみ)		

1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る知識・技能を身に付けている。	生涯を見通して家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

単 元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 人の一生と家族・家庭及び福祉 ・生涯の生活設計 ・青年期の自立と家族・家庭 ・子どもの生活と保育 ・高齢期の生活と福祉 ・共生社会と福祉	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉等の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会に果たす役割の重要性について問題を見出し、課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分の家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
B 衣食住の生活の自立と設計 ・食生活と健康 ・衣生活と健康 ・住生活と住環境	ライフステージや目的に応じた衣食住生活について理解しているとともに、必要な技能を身につけている。	衣食住生活について、問題を見出し、課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分の家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

C 持続可能な消費生活・環境 ・生活における経済計画 ・消費行動と意思決定 ・持続可能なライフスタイルと環境 ○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	生活を主体的に営むために必要な消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともにそれに係る技能を身につけている。	持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について、問題を見出して課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組んだり改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分の家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
--	---	--	--

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括をABCで行う。学年末には、それぞれの学期の観点別の評価を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- A:「十分満足できる」状況と判断されるもの
B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C:「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	○
実験・実習	○	○	○
小テスト	○		
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート		○	○
発言・行動発言			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ① 提出物は期日までに必ず提出してください。調理実習のレポートは原則翌日提出です。未提出の場合は評価しません。
- ② 忘れ物（教科書・ファイル・材料・エプロン・バンダナ他）・遅刻・居眠りは減点とします。
- ③ 考査は100点満点。授業をよく聞き、メモをとることで得点につながります。
- ④ 「後に使う人が気持ちよく使えるように後片付けを」することでみんなが気持ちよく実習室を使うことができます。相手の立場に立って想像力を膨らませ、常に思いやりの気持ちを持ちましょう。
- ⑤ 国際社会で生きる日本人としての自覚をしっかりと持ち、高校卒業後の自立した自分をイメージしてポジティブに実践していきましょう。